

(別添) 専門家によるモニタリングコメント・意見

モニタリング分析における「N501Y の変異がある変異株」についての補足

第 42 回東京都新型コロナウイルス感染症モニタリング会議(令和 3 年 4 月 22 日)における、N501Y の変異がある変異株に関する専門家によるモニタリングコメント・意見は以下のとおりである。

- 都におけるこれまでの感染状況から、医療提供体制が逼迫する分岐点は、入院調整が難航し、救急搬送時間が延伸し始めた時であり、新型コロナウイルス感染症の入院患者数が約 2,600 人に達した時であった。
- 新規陽性者数 700 人、増加比 1.2 の場合、2 週間後の新規陽性者数は約 1,000 人、入院患者数は約 3,000 人となると推計され、通常医療が圧迫される状況になる。
- 一方、国立感染症研究所の分析では、N501Y の変異がある変異株は、感染力が強く、実効再生産数が従来株の 1.32 倍とされており、海外では 1.9 倍になるとの報告もある。
- 4 月 21 日時点の速報値で、都内で N501Y の変異がある変異株と判定された陽性者の割合は、4 月 5 日から 4 月 11 日の約 28.5%と報告されている。
- 仮に、ほぼ全例が変異株(N501Y)に入れ替わるとして、単純に仮の試算を行えば、新規陽性者数が 700 人、増加比が 4 月 19 日時点の 1.32 倍である約 1.7 となった場合、2 週間後の新規陽性者数は約 2,000 人、入院患者数は約 6,000 人になると推計される。

(参考)

入院率 25%、新規陽性者 70 歳以上(約 30%)の平均在院日数約 17 日、70 歳未満(約 70%)の平均在院日数約 10 日と仮定して推計。